

事業部（健康レクリエーション事業）総括

アクアドーム

アクアドーム利用者数は、改修工事による客数ダウンから徐々に回復基調に向かっているが、平成18年度と比較すると約8,000人減の状態である。主な要因は、一般利用者、ウエルネスクラブ会員数の減少と考えられる。

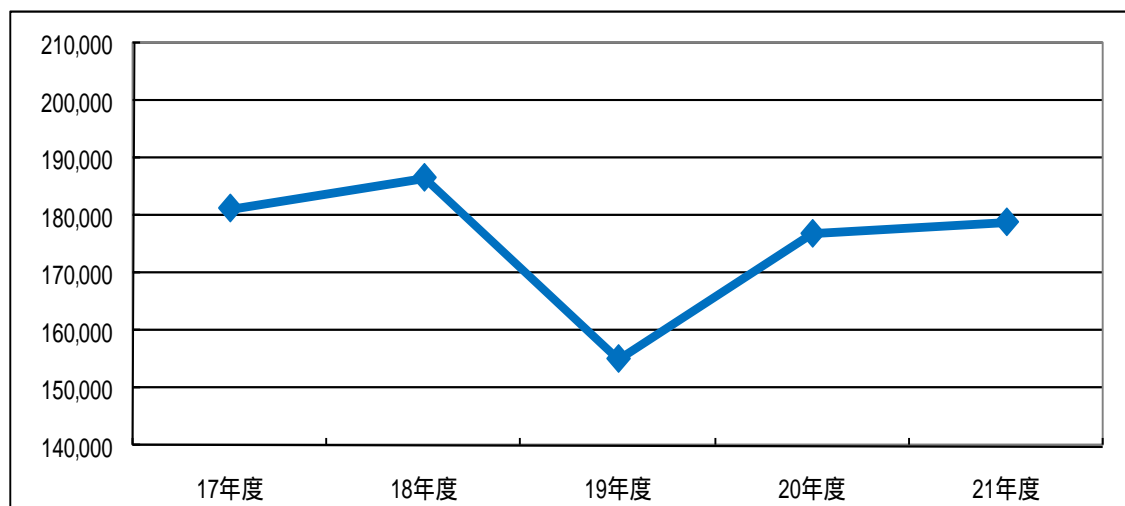
その対応策として、新聞折り込みチラシや過去の利用者に対してのダイレクトメール発送などの施設のPR、スイミングスクールの見直し等を行なった。

第2期指定管理者が不確定であることから「特定保健指導積極的支援アクアドームプログラム」も、10月以降の参加者は募集しないこととなった。

医師会からの要望であった負荷テスト執務回数の削減に関して、測定機器の使用と担当ドクターを合わせた業務委託を実施することができた。これにより、協力医療機関ドクターの執務回数が減少した。

宗像ユリックスのスポーツイベントの代名詞ともいえる24時間EKIDENは、好調に推移しており、今年度は参加者数が初めて2,000人を超え過去最高となる。

[アクアドーム利用者数]



(単位:人)

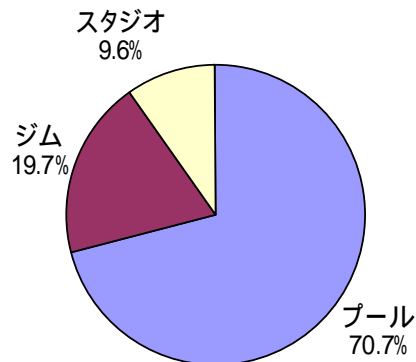
	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度
入場者数	181,295	186,630	155,119	176,890	178,892
対前年比	—	102.9%	83.1%	114.0%	101.1%
対17年比	—	102.9%	85.6%	97.6%	98.7%

※平成19年度は改修工事のため2ヶ月間営業休止のため、実績動10ヶ月間での入場者見込数

施設別利用人数

アクアドーム年間利用者数 178,892 人のうち、プール利用者は 126,566 人であり、アクアドーム全体の約 70.7%を占めた。

施設別に 20 年度と比較すると、プール利用者数 1,692 人増 (101.4%)、ジム利用者数 240 人増 (100.7%)、スタジオ利用者数 70 人増 (100.4%) であった。その結果、アクアドーム全体では 2,002 人増で 20 年度比 101.1%であった。



利用種別状況

利用種別で見ると、プール利用者全体のうち個人・団体・回数券の利用割合は 31.1%、年間券は 39.2%であり、スイミングスクール・ウエルネスクラブ等の公社事業に係る利用は 37,544 人で全体の 29.7%となった。

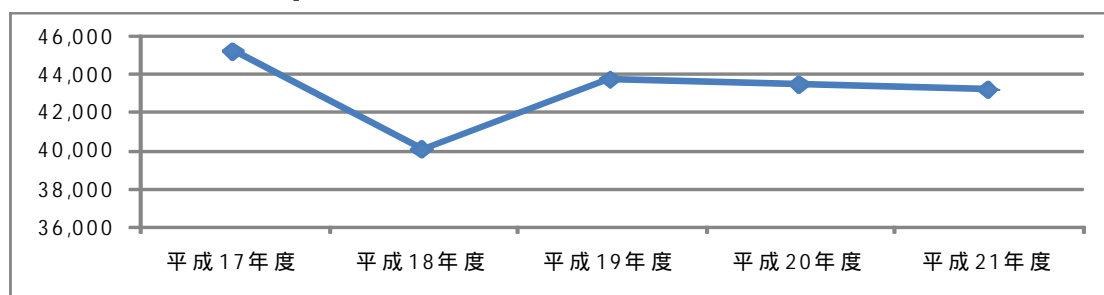
トレーニングジムでは、ウエルネス会員の割合が高く、公社事業の利用割合が 73.3%を占めた。

スタジオでは、宗像文化サークルを含めた一般利用 8,047 人 (46.9%)、エアロビクス等の公社事業 9,108 人 (53.1%)となっていた。

ゆ～ゆ～プール

今年度の営業は、7月4、5日と11、12日を先行営業し、通常営業は7月18日より8月31日の計49日間であった。大雨で1日営業を中止した。総入場者数は43,194人(1日平均約900人)で、前年度の43,476人(営業日数日間、1日平均906人)と比べると282人減(0.6%)であった。

[ゆ～ゆ～プール利用者数]



(単位:人)

	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度
利用者数	45,216	40,038	43,745	43,476	43,194
対前年比	104.8%	88.5%	109.3%	99.4%	99.4%

本年も特別企画として平日3時以降の入場料を半額にする「ゆ～涼み割引」を実施した。

ゆ～涼み割引の入場者は7,320人(1日約244人)、お弁当プラン利用者は615人、アクアヌードル¹貸出は336件であった。

¹ 浮輪の一種

パットゴルフ場

今年度利用者数は6,741人、前年度に比べて467人増加した。例年の減少傾向に歯止めがかかった。3月にペアパットゴルフ大会を開催し、参加35チームが参加した。

[パットゴルフ利用者数]

(単位：人)

年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度
利用者数	8,585	6,856	6,627	6,274	6,741

その他屋外施設等

多目的広場は、本館で多数の来館が予測されるイベントがあるときはあらかじめ臨時駐車場として確保している。また、平成19年にJR九州ラグビー部と宗像市の協定が締結され、多目的広場がメインの練習会場となっている。その他の利用としては、少年サッカークラブの練習などがある。

芝生広場・サーキットトレーニングコースでは、市内だけでなく近郊の幼稚園・小中学校から遠足などで来園されている。土日・祝日には家族連れの来園が多い。

パットゴルフ場隣りにあるわんぱく広場は、近年遊具類の老朽化などで魅力が少なくなっているが、平日においても幼児を連れた多くの親子連れにとって憩いの場となっている。

プレイ広場では、ラジコンやスケートボードなどの利用がおこなわれている。

公社主催健康づくり事業

利用者に対する健康づくり運動・レクリエーションスポーツ・生涯スポーツの普及に努めた。

健康づくり事業のメイン事業であるユリックスウエルネスクラブとスイミングスクールでは、会員の獲得・継続・利用促進に力を注いだ。会員・受講者の健康維持増進・健康支援をおこなった。

ウエルネスクラブ

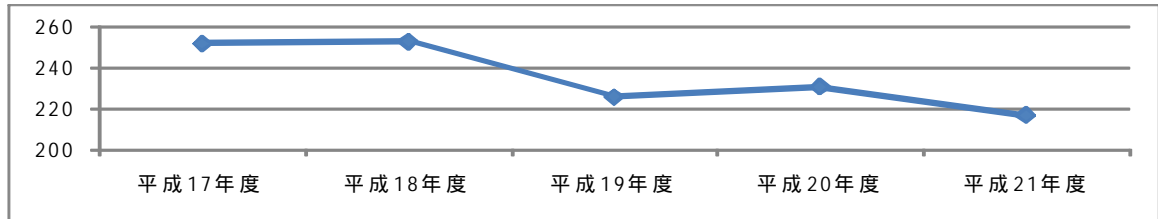
健康づくり・体力づくりの推進及び施設利用の促進を目的とした「ユリックスウエルネスクラブ」は、今年度末会員数が217人となり、前年度末の231人に比べて14人減少した。

特定保健指導アクアドームプログラム(6ヶ月間、月1回の個別指導)を実施した。次期指定管理者が未定であったため、10月から対象者は募集しなかった。年度末の3月までに6ヶ月間終了したのは10人であった(1人は転勤のため途中終了)。

ウエルネスクラブの会員増に向けての施策として、この特定保健指導アクアドームプログラムに参加された人、及び他の積極的支援プログラム参加者に対して、アクアドームを使用した運動継続を促すとともに、ウエルネスクラブの入会をお願いするにあたって入会金割引の特典を実施した。

アクアドームは「指定運動療法施設」に認定されており、ウエルネスクラブの会費が所得税の医療費控除対象になることから、本年度は、2人の会員が医療機関からの運動処方箋に基づいた運動を実施した実施証明書を添えて、還付申請をされた。

[ウエルネスクラブ会員数]



(単位:人)

	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度
ウエルネスクラブ会員数	252	253	226	231	217
対前年比	108.2%	100.4%	89.3%	102.2%	93.9%

スイミングスクール

ウエルネスクラブと並ぶ健康づくり推進事業のスイミングスクールについては、週1回コースを21クラス、週2回コースを1クラス、3か月を1期として年間3期行った。受講者数1,277人(前年1,261人)で利用者数合計は11,773人(前年11,821人)となった。

利用者の中には10年間受講されている人もあり、今後は利用者の高いレベルに対応できるようにインストラクターの指導力向上に向けた取り組みが重要となってくる。泳法指導以外の「らくらく膝腰運動」や「水中ウォーク」などの教室で、高齢者や泳げないでプールが苦手な人にも気軽に健康づくりのできる教室展開を図っている。

介護保険課との共同事業である「介護予防水中運動教室」を週一回、営業時間前に行っている。本年度の参加者は12人であった。運動経験の少ない人が定期的な運動を始めるきっかけになり、介護予防につながる事業である。

エアロビックダンス

エアロビクス利用者数は7,506人(前年7,100人、105.7%)と増加した。

アクアドームのような総合フィットネス施設におけるエアロビックダンスは水泳・ジムトレーニングと同様に人気のある運動プログラムのひとつであり、特に若い女性層の取込みには欠かせないため、魅力ある教室を開催していきたい。

健康づくり教室

ジム利用者が自由に参加できるスタジオプログラムを開催した。プログラムは20分間で、「ストレッチ」、「筋力トレーニング」を指導員が行った。スタジオレッスンの参加者数が減少しているため、新規内容などの検討を行っている。

スタジオレッスン及び健康づくり教室で、年間1,590人(前年1,414人)となり増加した。

陸上の健康づくり教室として、芝生広場など屋外施設を利用したウォーキング教室と一般利用者も参加できる調理実習を行った。

ウォーキング教室を年3期実施した。受講者数は年間45人で前年度の35人に比べ、10人多かった。

調理実習は年間9回実施し178人の参加があった。前年198人に比べ20人少なかった。

食材の選び方や分量を確認しながら調理し、出来上がった料理を楽しく食べた。

有料で、3日間の食事調査を基に聞き取り確認を行い、栄養分析を実施しているが、このシステ

ムでの利用者が少なくなっている。

[その他・利用者数]

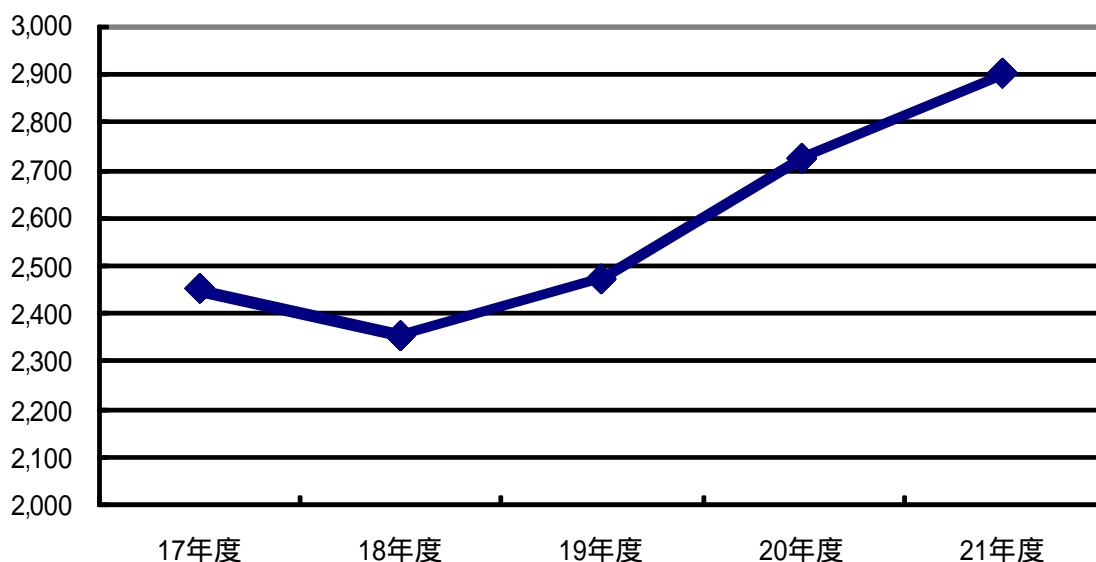
(単位：人)

	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度
スイミングスクール	13,884	13,127	8,922	11,821	11,773
エアロビ利用者	5,837	8,396	6,098	7,100	7,506
健康づくり教室利用者	2,602	1,750	1,187	1,414	1,590

公社主催スポーツイベント

南ゾーン各施設の利用勧奨とスポーツ・レクリエーションの振興のために各種のイベントを実施した。ほとんどが屋外イベントで、天候などに左右されやすいが中止せず延期で対応している。24時間EKIDENや12時間耐久スイムは、アクアドームの利用者を中心としたボランティア団体が大会運営をするなど市民参加型のイベントとして根づいている。

[スポーツイベント参加者数]



(単位：人)

参加者数	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度
24時間耐久EKIDEN					
参加チーム数	90	91	89	99	101
参加者数	1,766	1,702	1,792	1,898	2,115
12時間耐久スイム	187	213	240	247	261
テニス(ペア数×2)	126	90	116	92	80
小学生3ON3大会	308	266	233	399	361
バスハイクほか	63	83	90	87	80
合計(参加者)	2,450	2,354	2,471	2,723	2,897
対前年比	94.2%	96.1%	105.0%	110.2%	106.4%

〔第15回 24時間EKIDEN〕（4月25日～26日）

実行委員会形式とし、ボランティア団体中心の大会運営となって好評であった。周回の計測を、集計チップでの計測し、スムーズに大会を運営することができた。

芝生広場の外周(850m)を1チーム(5～30人)で一本のタスキをリレーしながら、24時間(休憩自由)に走った距離を競う。有料参加は101チーム(2,115人：一般、1,844人 中・高校生、132人小学生、139人)あり、前年度99チーム(1,898人)より2チーム、217人の増加での開催となった。

〔第21回 ユリックスカップ・テニストーナメント〕（5月16日）

ユリックスオープン時からのスポーツイベントとして開催。雨天の場合や参加者の負担などを考慮し、予選リーグと決勝トーナメントを1日で終了するためにペアの参加で開催した。

今大会は、当初定員としていた81ペアが埋らず、40ペア、80人で大会を実施した。

本年度は、参加対象者やトーナメント方法を修正し、男子ダブルスB・C、女子ダブルスB・Cクラスで実施した。

〔第18回 12時間耐久スイム〕（11月28日～29日）

24時間EKIDENと同様、実行委員会形式で参加ボランティア中心の運営を行なった。

温水プールの営業時間外の夜間(22:00～10:00)を使い開催している。毎年、九州各地から参加があり、温水プールが7コースで35チームしか参加できないという制限もあり、根強いリピーターが受付初日から申込みのような人気のある大会である。

本年度は35チーム(鉄腕の部9チーム、エンジョイの部26チーム)有料参加者数：261人であった。参加費納入を銀行振込のみとした。混乱はなく事前にすべてのチームに入金いただいた。

アクアドームでもウエルネス会員やスイミングスクールの教室受講生がチームをつくって参加し、日頃のトレーニングの成果を競技とは関係なく、楽しんでいる大会である。

〔第13回 ユリックスカップ争奪小学生3ON3大会〕（12月23日）

ユニバーシアード福岡大会、女子バスケットボール宗像市開催を記念して始まった大会であり、本年は男女各々50チームの募集をし、105チーム 361人(男子57チーム・女子48チーム)の参加であった。

年末の祝日であるため、参加チームが少ないと予測していたが、結果は募集数を上回った。

〔ウォーキングバスハイク〕

仲間づくりをメインにした健康づくりセミナーと運動の実践そして食事と温泉を利用した休養というタイプのトータル的な健康づくりの提案を行なうことで多くの市民に健康づくりを始めるきっかけとなることを目的とした。

第17回：日時：2009年5月20日(水) 目的地：熊本城

参加者38人(男性：3人、女性：35人)

第18回：日時：2009年11月18日(水) 目的地：佐賀県東与賀町 武雄温泉

参加者42人(男性：8人、女性：34人)